



CSAジャパン関西支部 立ち上げにあたり

一般社団法人 日本クラウドセキュリティアライアンス
業務執行理事 諸角昌宏

CCSP, CCSK, CSAリサーチフェロー

2019年7月11日



アジェンダ

1. Cloud Security Allianceについて
2. 情報セキュリティとクラウドセキュリティ
3. CSAジャパンの主な活動
4. 働き方改革とCSAジャパン

1. Cloud Security Allianceについて

Cloud Security Allianceについて

- CSA本部： グローバルな非営利活動法人
 - 創立：2009年
 - 会員数
 - 個人会員 9万人以上
 - 地域支部 90以上(日本を含む)
 - 企業会員 400社以上
 - 33のワーキンググループと調査研究プロジェクト
 - 政府、研究機関、専門家団体、企業との戦略的パートナーシップ

- 次世代ITのための実践規範の構築
- 調査研究と普及啓発

クラウドコンピューティングにおけるセキュリティ保証に向けた実践規範活用の促進と、クラウド利用のための教育を通じてあらゆるコンピュータ利用のセキュリティを高めるための活動への取り組み

一般社団法人日本クラウドセキュリティアライアンス設立の趣旨・背景

● 目的

- Cloud Security Alliance(CSA)の開発するガイドラインやツールを日本で展開・活用するための取組みを中心に活動
- CSAの活動の活発化、世界的プレゼンスの向上
- 各国での支部の設立、法人化の進行
- ますます浸透するクラウドの活用とそのセキュリティ課題の重要性に対応

● 経緯

- 2010年6月に任意団体として発足
- 2013年12月にCSA日本支部を法人化（一般社団法人へ）
 - 日本におけるクラウドセキュリティへの取組みの中心を担うべく、法人化し、活動基盤の強化充実を図る

● 会員数

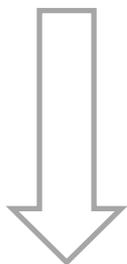
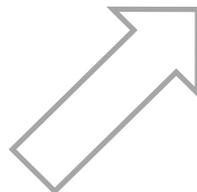
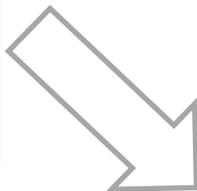
- 企業会員：34社（2019年5月31日時点）
- 個人会員：約132名

CSAにおけるWG活動とその相互連携

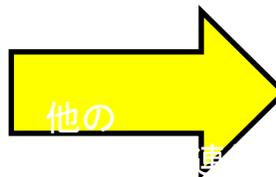


CAITM

**CSA
STAR**TM
Security, Trust & Assurance
Registry



CCMTM
Cloud Controls Matrix



ISO27001/ISO27010/
HIPAA/ HITECH Ac/
AICPA/COBIT/ENISA/
FedRAMP/ PCI DSS



CCSKTM
Certificate of
Cloud Security Knowledge

WGや研究活動

Logos for Internet of Things, Big Data, HIM, and SecaaS, along with a chain link icon.

2. 情報セキュリティとクラウド

政府による「クラウド・バイ・デフォルト」

「クラウド・バイ・デフォルト原則、すなわち、**政府情報システムを整備する際に、クラウドサービスの利用を第一候補とすることとされ、...**」
「政府情報システムにおけるクラウド・バイ・デフォルトの基本的な考え方、各種クラウド（パブリッククラウド、プライベートクラウド等）の特徴、クラウド利用における留意点等を整理する」

1.1 背景と目的

近年、急速に進化し発展したクラウドサービスは、正しい選択を行えば、コスト削減に加えて、情報システムの迅速な整備、柔軟なリソースの増減、自動化された運用による高度な信頼性、災害対策、テレワーク環境の実現等に寄与する可能性が大きく、政府情報システムにおいても、クラウドサービスを利用することで様々な課題が解決されることが期待される。

しかしながら、これまで政府では、情報セキュリティや移行リスクへの漠然とした不安、不十分な事実認識等から、クラウドサービスの利用に前向きでなかった。しかし、このような状況が否定できない。クラウドサービスの利用が増加してきている。

このような状況において、「世界最先端IT国家創造宣言・官民データ活用推進基本計画」（平成29年5月30日閣議決定）及び「デジタル・ガバメント推進方針」（平成29年5月30日高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部・官民データ活用推進戦略会議決定）では、クラウド・バイ・デフォルト原則、すなわち、政府情報システムを整備する際に、クラウドサービスの利用を第一候補とすることとされ、「デジタル・ガバメント実行計画」（平成30年1月16日閣議決定）において、「政府情報システムにおけるクラウド・バイ・デフォルトの基本的な考え方、各種クラウド（パブリッククラウド、プライベートクラウド等）の特徴、クラウド利用における留意点等を整理することとされたところである。

引用：政府情報システムにおけるクラウドサービスの利用に係る基本方針（2018年6月7日）

クラウドのセキュリティのメリット！

1. 重要なのはセキュリティのベースラインを上げること

- ▶ 企業、個人レベルで立ち向かうことは不可能
- ▶ 認証を取得しているだけでは成熟度は上げられない
- ▶ 可用性、堅牢性は圧倒的にクラウドが優位

2. プロバイダの透明性を有効活用

- ▶ 欧米中のプロバイダは自社のセキュリティ状況を積極的に公開
 - ▶ 例： CSA STAR認証では、プロバイダのセルフアセスメントの結果を公開。現在200社以上が登録
- ▶ セキュリティはプロバイダの差別化要因
- ▶ プロバイダのセキュリティレベルを判断できるリテラシーは必須

3. セキュリティのソフトウェア化（サービス化）

- ▶ セキュリティの人材不足はソフトウェアが解決
- ▶ クラウドは、様々なセキュリティのソフトウェア化が可能

セキュリティは
クラウドが守る！

3. CSAジャパンの主な活動

ワーキンググループ (WG) 活動

- ▶ CCM/STAR WG : CCM日本語版の制作、実践における解釈・解説の開発、日本の基準類のマッピング等への取組みと、実践としてのSTAR認証の深化と普及に向けた活動
- ▶ Guidance WG : クラウドセキュリティガイドンス4.0開発への参画と進展フォロー、翻訳への取組み
- ▶ SLA-Ready WG : SMBに適したSLAの研究・開発・普及
- ▶ クラウドプライバシーWG
クラウドPLA、CSAのGDPR対応実装等の研究
- ▶ 健康医療情報管理WG : クラウドにおける医療情報の共有・活用におけるセキュリティ・プライバシー課題の研究
- ▶ IoT WG : Internet of Thingsに不可欠のクラウドサービスの視点から、IoTのデバイス・開発・通信・サーバ等のセキュリティ課題の調査研究に取り組む
- ▶ CASB WG:セキュリティサービスであるCloud Access Security Brokerの技術・ビジネスモデルの研究と、認知普及に関する活動
- ▶ SDP WG : クラウドと親和性の高いtrusted networkを実現するSDP (Software Defined Perimeter)の研究と普及活動
- ▶ Blockchain WG:
クラウド上でのブロックチェーン・分散台帳のセキュリティ要件等の研究とグローバルな発信
- ▶ コンテナ・マイクロサービスWG
セキュアなアプリケーションコンテナおよびマイクロサービス利用のためのガイドンスやベストプラクティスの研究帳
- ▶ モバイルWG : 休止中

各ワーキンググループ活動

▶ CCM/STAR WG

- ▶ CCM（Cloud Control matrix）、CAIQ（CONSENSUS ASSESSMENTS INITIATIVE QUESTIONNAIRE）の日本語版の公開
- ▶ STAR認証関連の日本語版の公開
 - ▶ 「CSA STARプログラムとOPEN CERTIFICATION FRAMEWORK (OCF) とその後の展望」
- ▶ STAR継続型（STAR continuous）関連の日本語版の公開
 - ▶ 「STAR継続型 信頼と一貫性の増進へ」
 - ▶ 「STAR継続型技術文書 認証を取得するには」
- ▶ CCMとISO/IEC27017とのマッピング、リバースマッピング

STAR認証が掲げる「**透明性**」、「**相互認証スキーム**」、「**継続性**」に向けての活動

各ワーキンググループ活動

▶ ガイダンスWG

- ▶ 「クラウドコンピューティングのためのセキュリティガイダンス」の日本語版の継続的提供
 - ▶ 現在 V4.0 を公開
- ▶ CSA本部に向けて、ガイダンスのレビューおよびコメントの発信を実施
- ▶ CSAジャパン会員に向け、クラウドセキュリティのリテラシ向上に向けての教育活動
 - ▶ 「アカデミー」 を2018年より実施 （詳細は後述）

CSAのバイブルでもある**ガイダンスのタイムリーな日本語化、情報発信、啓蒙活動**

各ワーキンググループ活動

▶ クラウドセキュリティWG

- ▶ 「CSA ガイダンスversion 4.0 を用いたクラウドセキュリティリファレンス（OSS マッピング2019）」を公開
 - ▶ 翻訳ではなく、CSAジャパン独自作成資料
 - ▶ クラウド利用者目線で、実環境における設計や実装における具体的な検討を支援するため、Open Source Software(OSS)とガイダンスをマッピングさせた。
- ▶ 次のテーマとしてDevOps、DevSecOpsの検討を開始

クラウド利用者にとって、どのようにセキュリティを担保していくかについて、特に技術的な観点で掘り下げる活動

各ワーキンググループ活動

▶ SLAイノベーション WG

- ▶ 「クラウドSLAの共通参照モデル－ユースケース解説とSME向け活用法－」
 - ▶ EU研究フレームワーク「Horizon 2020」におけるSME向けクラウドSLA支援プロジェクトの「SLA-Ready」が公開した“A Common Reference Model to describe, promote and support the uptake of SLAs – Final report”の日本語解説資料
- ▶ 本編「クラウドSLAの共通参照モデル／CSP評価モデル解説とデジタルヘルス分野事例の考察」
 - ▶ 「SLA-Ready」の「A Common Reference Model to describe, promote and support the uptake of SLAs – Final report」（CRM）を対象とした日本語解説資料
- ▶ 別冊「クラウドSLAの共通参照モデル／CRM要件・クラウドSLA事例集」
 - ▶ 上記の特定分野（デジタルヘルス）事例におけるSLA評価水準の考察資料

中小企業・小規模事業者や地域のイノベーションコミュニティ向けに、クラウドサービス利用時のセキュリティ／プライバシー保護に関する啓発活動を推進する活動

各ワーキンググループ活動

▶ クラウドプライバシーWG

▶ 「GDPR 準拠の為の行動規範」公開。

▶ 「CODE OF CONDUCT FOR GDPR COMPLIANCE」の日本語訳および解説版

▶ 現在の活動は、日本の個人情報保護法のクラウド利用における検討を実施中

クラウド環境におけるプライバシーの保護および取り扱いについて、日本及びグローバルの観点からの検討、情報発信を行っていく活動

各ワーキンググループ活動

▶ 健康医療情報管理WG

- ▶ 「日印人材育成・交流イニシアティブ設立趣意書」を公開
- ▶ 健康医療、クラウドSLAおよびクラウドセキュリティ領域における日印人材交流に関わるコミュニティとの協業活動

CSAグローバルのHealth Information Management Working Groupの活動に準拠。健康医療分野のクラウド利用に係るセキュリティ／プライバシー保護を支援するための調査研究啓発活動

各ワーキンググループ活動

▶ IoT WG

- ▶ 「IoT早期導入者のためのセキュリティガイダンス」を公開
 - ▶ 「Security Guidance for Early Adopters of the Internet of Things (IoT)」の日本語版
 - ▶ 「IoTにおけるID/アクセス管理 要点ガイダンス」を公開
 - ▶ 「Identity and Access Management for the Internet of Things – Summary Guidance」の日本語版
 - ▶ 「「つながる世界」を破綻させないためのセキュアなIoT製品開発 13のステップ」を公開
 - ▶ 「Future-proofing The Connected World : 13 Steps to Develop Secure IoT Products」の日本語版
- ほか多数翻訳版を提供
- ▶ 「IoTへのサイバー攻撃仮想ストーリー集（第一版）」を公開
 - ▶ CSAジャパン独自の調査研究に基づいた資料

IoTのためのクラウドサービスを脅かす脅威を明らかにし、その対応指針を示す。また、CSAグローバルのIoT WGと連携し、企画、レビューに参加して提案を実施。

各ワーキンググループ活動

➤ CASB WG

- 「CASB (Cloud Access Security Broker)～ クラウド利用におけるセキュリティギャップの解消と活用事例 ～」を公開
 - CASBによるクラウドセキュリティに対する考え方と、実際のCASBの活用事例を紹介
- CASBリレーコラム（ブログ）公開
 - 第1回～第10回 公開中

日本におけるCASBの普及に向け、テクノロジーおよびビジネスへの適用方法、また、今後CASB上に展開(搭載)される機能について幅広く議論し情報提供する活動

各ワーキンググループ活動

➤ SDP WG

- 「クラウド時代に求められる最新の認証方式 ソフトウェア・DEFINED・ペリメタ (Software Defined Perimeter : SDP) の活用」を公開
 - SDPをわかり易く解説するためにSDPワーキンググループが作成
- 「SDP利用シナリオ集」を公開
 - ゼロトラスト・ネットワークにおいて理想的な技術であるSDPを、その利用シーンに基づいて解説するために、CSAジャパン SDPワーキンググループが作成

日本におけるSDPの普及に向け、テクノロジーおよびビジネスへの適用について幅広く議論し情報提供を行う活動

注意) お配りしたパンフレット「クラウド時代に求められる最新の認証方式」の最初のURLが間違っています。正しくは以下になります：

https://cloudsecurityalliance.jp/site/wp-content/uploads/2018/12/SDP_guide_160408_2.pdf

各ワーキンググループ活動

▶ Blockchain WG

- ▶ 「IoTセキュリティのためのブロックチェーン技術の活用」を公開
 - ▶ 「Using Blockchain Technology to Secure the Internet of Things」の日本語訳
- ▶ 新たに、以下の3つの注力点でBlockchainを掘り下げていく活動を行います
 - ▶ ソリューション・サブグループ
 - ▶ CSA本部 Blockchain WGの情報展開
 - ▶ OpenCPE 展開

CSA本部BlockchainWGの情報の日本展開に加えて、新たに、Blockchain技術が有効に利用できる分野、ソリューションに焦点をあて、Blockchainの有効性の調査・研究を行う活動

各ワーキンググループ活動

▶ コンテナ・マイクロサービス WG

▶ 2019年6月スタート

▶ 関西地区を主体

アプリケーションコンテナおよびマイクロサービスのセキュリティに関する基本的な調査研究を行い、セキュアなアプリケーションコンテナおよびマイクロサービス利用のためのガイダンスやベストプラクティスを発行するとともに、アプリケーションコンテナおよびマイクロサービスのセキュリティに関する啓発活動

CSAジャパン WG 参加方法

1. CSAジャパンのホームページ
<https://cloudsecurityalliance.jp/>
2. 「ワーキンググループ」のプルダウンより、「ワーキンググループ参加お申し込みページ」を選択
3. 「参加を希望されるワーキンググループ」のプルダウンから参加するWGを選択し、必要事項を記入して送信

注意： ワーキンググループへの参加はCSAジャパン会員のみとなりますが、CSAジャパン会員以外の方もオブザーバ参加（1回だけ会議に参加）が可能です。

WG活動の多拠点化へのチャレンジ

- **ゴール**

- どこからでもWG活動に参加できる
- どこでもWGを立ち上げられる
- CSA本部のWGと同様の活動方法を日本に根付かせる

- **チャレンジ**

以下のツールなどを活用し、どこからでも参加できるWGをドライブ

- ウェブ会議
- コラボレーションツール
- ファイルコラボレーションサービス

その他の主な活動状況(1)

- **CSAアカデミー**

- ガイダンス4.0を用いて、CSAジャパン会員にクラウドセキュリティを学ぶ機会を提供
- 昨年（2018年）に続き、本年も実施
- 全15回（2019/4/25～2019/11/21）
- アカデミーの内容はビデオ化し、CSAジャパン会員がいつでも視聴できるようになる予定

- **月例勉強会**

- 旬のテーマを随時ピックアップし開催
- 会員以外も参加可能、また、懇親会での交流も実施
- 関西拠点でも今後定期的に行なわれる

その他の主な活動状況(2)

● 普及啓発イベント

- CSA Japan Summit: 春(5月)開催
 - クラウドセキュリティを中心とした旬の話題で構成
- CSA Japan Congress: 秋(11月)開催
 - CSAジャパンWGの活動報告を中心とした構成
 - パネルディスカッションの実施

今後、関西でのイベントも計画

● CSA本部公開資料の日本語版提供

- WG活動以外でもCSA本部公開資料を翻訳・公開

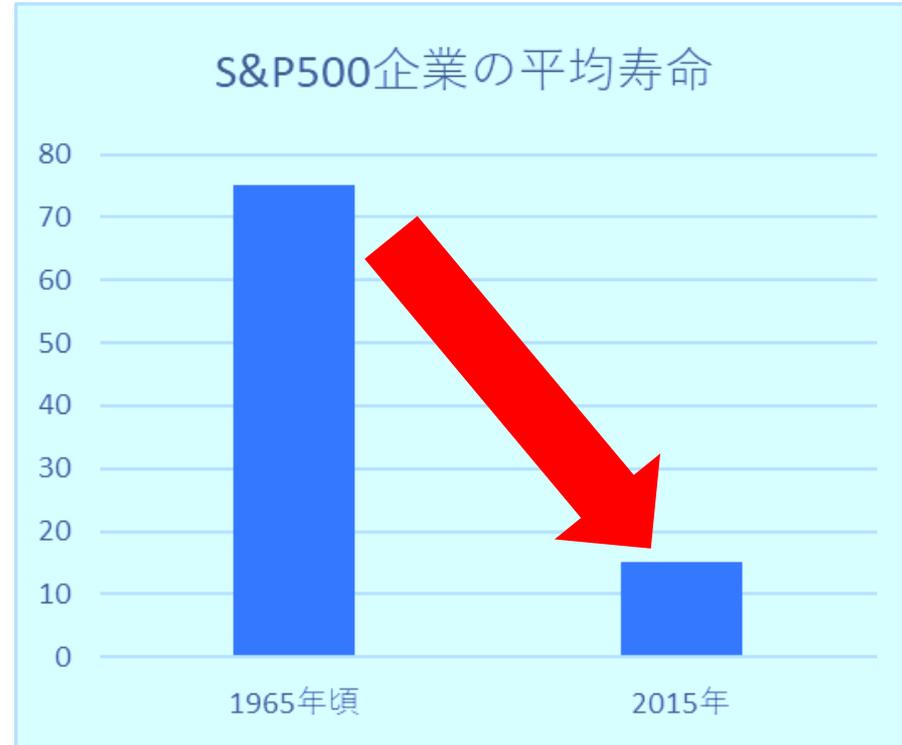


4. 働き方改革とCSAジャパン

2nd 3rd more キャリアの時代

- ▶ 約40年働くと仮定
 - ▶ 企業の寿命が75年であれば1stキャリアで全うできる。
 - ▶ 企業の寿命が15年であれば、3つのキャリアが必要になる。
- ▶ 今は仕事がある。いつまで？
 - ▶ 例) セキュリティ人材が約20万人不足する。本当？
<http://www.meti.go.jp/press/2016/06/20160610002/20160610002.html>
 - ▶ どこか来た道（電話交換手って知ってますか？）

2ndキャリア、3rdキャリア、moreキャリアにむけての自己投資！



半世紀前は約75年だったS&P500企業の平均寿命は、今では15年を切り、さらに短くなっている。
<https://bizzone.jp/article/detail/2601>

デジタルトランスフォーメーション

➤ Digital TransformationとDigitalization

- **Digitization/Digitalization**: クラウド、モバイル、IoT、AIなどのテクノロジーを使いこなし、製品やサービスを進化させること/デジタル技術の利用によりビジネスモデルを変換し、新たな利益や価値を生み出す機会をもたらすこと。
- **Digital Transformation (DX)** : 組織文化や社員の意識、行動を変革すること。
 - デジタル技術を活用したビジネスや業務の変革
 - デジタルネイティブが活躍できる組織になるように、自らを転換すること。自分のあり方を転換する取り組み。

**DXは、人や企業文化をアジャイル型に転換すること。
つまり、常に変化に対応できることへの転換。**

<https://it.impressbm.co.jp/articles/-/17054>

DX時代にどう生きるか

- ▶ 仕事が無くなるわけではない。 **仕事が2極化する！**
- ▶ 例1：ソフトウェア開発者
 - ▶ low codeの流れにより、プログラムを書けるだけの人は淘汰される
 - ▶ ビジネスをソフトウェア化（low codeを使って）できる人
 - ▶ プラットフォーム等の基盤が設計できるソフトウェアエンジニア
- ▶ 例2：セキュリティ専門家
 - ▶ セキュリティを語るだけの人は淘汰される
 - ▶ セキュリティ戦略を立てられる人
 - ▶ ハッカーと本気で戦えるエンジニア
- ▶ 例3：AI時代の人間
 - ▶ AI=1つの価値関数の最適化(部分的)。単純作業は淘汰される
 - ▶ データを使って価値を創造できる人（例：データサイエンティスト）
 - ▶ AIが価値を見出すかどうかを判断できるマネージメント

2025年の崖

➤ DXの阻害要因

- 既存システムがブラックボックス化し、データの利活用ができない
- システムの維持管理費がIT予算の9割以上
- 保守運用の担い手不在で、サイバーセキュリティや事故・災害によるシステムトラブルやデータ滅失等のリスクの増大

2025年までの間に、複雑化・ブラックボックス化した既存システムについて、廃棄や塩漬けにするもの等を仕分けしながら、必要なものについて刷新しつつ、DXを実現することにより、2030年実質GDP130兆円超の押上げを実現。（経済産業省 DXレポート、～ITシステム「2025年の崖」克服とDXの本格的な展開～ より引用）

- アジャイルに転換できるシステム => クラウドの効果的な活用
- モノづくりからコトづくり => データ駆動型社会（Society5.0）
- そして、**ヒトづくり！**

働き方改革の本筋

▶ 働き方改革で起こる事

▶ 社員間のデバイドがさらに進む

▶ 変化に対応できる人

▶ 常に変化を意識し、自己啓発/自己教育/自己投資のできる人

▶ 現在の仕事をとことん追求しつつ、変化への意識を常に持つ人

▶ 変化に対応できない人

▶ 目の前の仕事をこなすことだけに全力を傾ける人

▶ 会社が社員を育ててくれる時代は本当に終焉

▶ 能力主義の徹底：

▶ **今の**自分を幾らで雇ってくれるかが存在価値

▶ 会社は社員を時価総額的に見る

▶ 自ら**変化に対応できる/変化を主導できる**社員を見極める

CSAが何ができるか

➤ CSAの活動 == 「場」の提供！

➤ 様々なワーキンググループ活動の「場」

➤ 自由な情報発信の「場」

➤ クラウドセキュリティに限定せず、幅広いIT関連の議論等が可能

◆ クラウドにつながらないものはないので、なんでもテーマにできる

◆ 外部コミュニティ

➤ CSAブログや勉強会を通して自由な情報発信が可能

➤ CSA事務局は、皆様のアイデアを支援・推進します！

◆ 企業には、社員の方々が積極的にこの「場」を活用できるようにご協力をお願いします！

The screenshot shows the website for the Cloud Security Alliance Japan Chapter (CSAJC). The header includes the CSAJC logo and the text 'cloud security alliance Japan Chapter' and '日本クラウドセキュリティアライアンス (CSAジャパン)'. The navigation menu includes 'CSAジャパンについて', '会員企業一覧', 'ニュース', '資格/認証制度', '日本語資料集', 'ワーキンググループ', and 'イベント/勉強会'. The 'ワーキンググループ' menu is open, listing various groups: BLOCKCHAIN WG, SLA-INNOVATION WG, CCM/STAR WG, CASB WG, ガイダンス WG, MOBILE WG, BIGDATA_WG, HEALTHCARE_WG, IOT_WG, SDP_WG, and クラウドプライバシーWG. A news article is visible with the headline '「IoTにおけるID/アクセス管理 要点ガイド」を公開いたしました！' and a sub-headline 'クラウドセキュリティアライアンス (CSA) は、国際的に活動を展開している非営利法人としての使命は、クラウドコンピューティングのセキュリティを実現するために、ベストプラクティスを広め推奨することにあります。そしてクラウドのユーザーに対しては、クラウドの利用に際してセキュリティの確保に向けての啓発教育を提供します。アメリカを中心に、世界に向けて様々なガイドラインや参照モデル、推奨事項を取りまとめ、発信する活動を展開すると同時に、世界60以上の国や地域に展開しています。日本クラウドセキュリティアライアンスは、' (The text is partially obscured by the menu).



CSAの活動 == 「場」の提供！
様々なワーキンググループ活動の「場」
自由な情報発信の「場」

<https://cloudsecurityalliance.jp>
info@cloudsecurityalliance.jp



ありがとうございました